

科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

日 時 平成 22 年 3 月 4 日 (木) 10:00 ~ 11:45

場 所 合同庁舎 4 号館 7 4 2 会議室

出席者 津村政務官、相澤議員、本庶議員、奥村議員、今榮議員、青木議員、中鉢議員、金澤議員、藤田統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大石審議官

議事概要

議題 1 . 「平成 2 1 年度科学技術の振興に関する年次報告」骨子案について

(次回の年次報告の骨子について、前広に自由なブレインストーミングを行うため非公開)

議題 2 . アクション・プラン策定に係るタスクフォースの開催について

(外部有識者の個人名を含む内容のため非公開)

議題 3 . 科学技術政策の今後の課題

< 科学技術振興機構研究開発戦略センター・吉川センター長説明 >

(本庶議員) i P S の発見など、パラダイムシフトを起こすような基礎研究は、説明いた
だいた枠の外にある。その時点における科学の通説に反逆する精神を持った人
を一定の規模で持つことも重要。

(金澤議員) 研究をしているグループと、それを製品化するグループ、端的に言えば、大
学と産業界との間に共通のプラットフォームがないがゆえにいろいろ問題が起こ
っている。その機能を果たすのが、公的シンクタンクであると理解する。

(津村政務官) こういう公的シンクタンクとしては、具体的にはどういう選択肢があるか。

(岩瀬審議官) 文科省の科学技術政策研究所、科学技術振興機構の研究開発戦略センターが
ある。アメリカでは、年間単位でシンクタンクに業務を委託している例もある。

(中鉢議員) 民間では、個別の企業だけでは情報量がどうしても限られるため、民間のコン
サルティング会社の助言も受けながら、会社の意思決定をしている。

(吉川センター長) 国家戦略として、情報というエビデンスに加え、仮説的な戦略を出すことが
できるような公的シンクタンクが欠落している。

(奥村議員) 現在、大学での分析型の基礎研究が弱くなっているという感じを受ける。

(相澤議員) 今後も、研究開発戦略センターとは、情報交換、意見交換等をしていきたい。

議題 4 . 科学・技術政策上の当面の重要課題について

< 須藤参事官説明 >

(本庶議員) 科学・技術はイノベーションのためだけにあるのではない。メインメッセ
ージの部分に、科学・技術は人類の英知に貢献するという表現があってもいいの
ではないか。

(中鉢議員) イノベーションと基礎研究はどちらも大事で欠かすことはできないが、質の
チェックなしに基礎研究の重要性を強調することは、国民的な理解を得にくい
のではないか。

- (本席議員) 4ページの「基礎体力」というのはどういう趣旨か。こういう表現をすると、基礎研究がイノベーションのための僕であるという印象になる。
- (奥村議員) 科学的課題の解決をめざし知の創造というような表現ではどうか。
- (中鉢議員) 例えば、宇宙開発、海洋など、個別の問題を例示する必要があるのか。個別の予算付けを示唆することにはならないか。
- (相澤議員) これは総合科学技術会議の有識者議員のペーパーであり、そこまでのものではない。どこにフォーカスを合わせていくのかは、アクション・プランをはじめ、今後議論していくこととなる。
- (津村政務官) 「当面の重要課題」は、アクション・プランや、その後の予算プロセスを規定するものではないと理解する。
- 宇宙と海洋はそれぞれ別の本部があるが、ここで宇宙、海洋という表現が出てくることは、我々はインテグレートした視点でものを考えているようなというメッセージになるので、非常に有意義である。

議題5．最先端・次世代研究開発支援プログラムについて

<二村参事官説明>

- (中鉢議員) 日本学術振興会は実務を担い、総合科学技術会議が決定するということが明確になるよう、構成を工夫すべき。

議題6．その他

<加藤参事官説明>

- (津村政務官) 議題2(「科学・技術政策上の重要課題」)は、アクション・プランの策定につながるという趣旨が分かるような表現にすべき。

(以上)